

平成19年度 事業報告



建学の理念

ひとりひとりの
若人が持つ能力を
最大限に引き出し
技術者として
社会人として
社会に貢献できる
人材を養成する

学校法人 加計学園

目 次

法 人 全 般	1
岡 山 理 科 大 学	12
倉 敷 芸 術 科 学 大 学	20
千 葉 科 学 大 学	26
岡山理科大学附属高等学校	30
岡山理科大学附属中学校	34
岡山理科大学専門学校	37
玉野総合医療専門学校	41
倉敷芸術科学大学専門学校	45

学校法人 加計学園

平成19年度事業報告

【法人全般】

I. 事業の概要（全般）

本学園は昭和36年（1961年）に創立して以来、建学の理念「ひとりひとりの若人が持つ能力を最大限に引き出し技術者として社会人として社会に貢献できる人材を養成する」に基づいて、私学として特色ある教育・研究体制の充実に努めてまいりました。

平成19年度は、

- ① 大学全入時代へ突入しましたが、この18歳人口の減少期こそ、教職員が心を一つにして、私学でなければならない教育の実践が社会に役立つ人材を育成するという強い使命感のもと事業に取り組んだ結果、「3大学合同教育改革プログラム意見交換会」の実施、中学・高校における生徒の活躍、専門学校における国家試験又は、資格取得の合格実績等として実を結ぶことができました。
- ② 一方、経営の健全化を目指して、資産の効率的な運用により運用益増を図り、また、人事制度等諸制度の見直し、業務の効率化に努めるとともに、経費の節減、負債の減少など、財務体質の強化に努め、財務情報を開示しました。
- ③ 学園50周年記念事業の一環として、加計美術館4階に加計グループ創立者加計勉記念コーナーを新設しました。
- ④ 法人本部では、中学校及び高等学校の生徒募集戦略の強化を図るため、中高広報室を設置しました。また、第二総合計画室を特命事業推進室に変更し、関連事業及び特命事項を行う部署としました。その他、組織の見直しを行いました。

II. 法人の概要

1. 理事・監事・評議員

（平成19年5月1日現在）

区分	定数	現員			備考
		常勤	非常勤	計	
理事	9～13	6	6	12	
監事	2		2	2	
評議員	23～32	25	6	31	

（単位：人）

2. 専任教職員の配置状況

（平成19年5月1日現在）

設置校名	教員								事務職員	合計	備考
	学 （校） 長	副学 （校）長 /教頭	教 授 （論）	准 教 授	講 師	助 教	助 手	計			
岡山理科大学	1	3	167	64	39	7	2	283	200	483	
倉敷芸術科学大学	1	1	72	21	13	7	3	118	58	176	
千葉科学大学	1	2	49	24	16	7	9	108	49	157	
岡山理科大学附属高等学校	(1)	4	84					88	16	104	※
岡山理科大学附属中学校	(1)	1	15					16	3	19	※
岡山理科大学専門学校	1	1	14					16	13	29	
玉野総合医療専門学校	1	2	27					30	8	38	
倉敷芸術科学大学専門学校	1	1	7					9	3	12	
合計	6	15	435	109	68	21	14	668	350	1,018	

※岡山理科大学附属高等学校長、岡山理科大学附属中学校長は、岡山理科大学教授と兼務

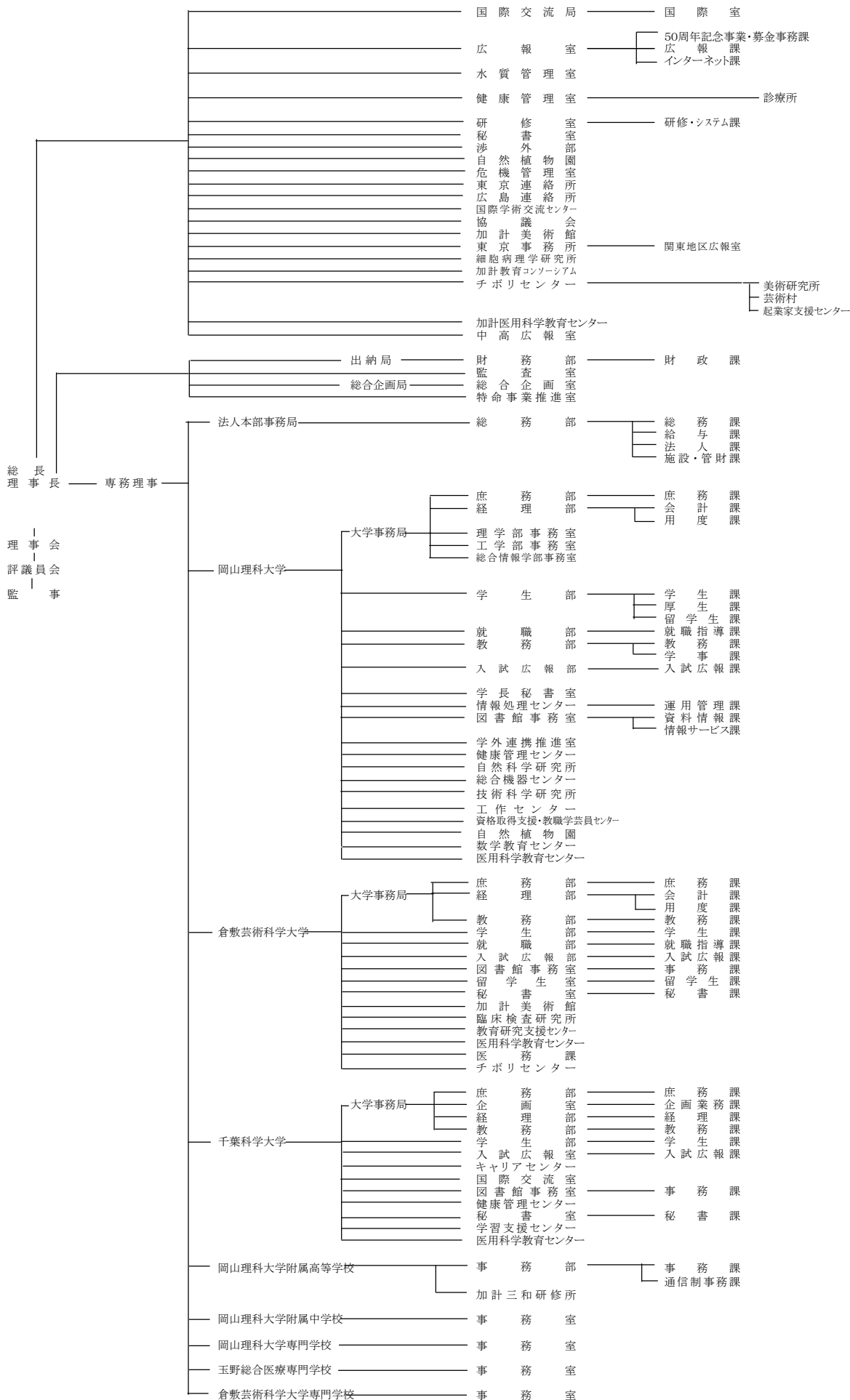
（単位：人）

3. 設置校

岡山理科大学 (岡山市理大町1-1)	理学研究科 工学研究科 総合情報研究科 理学部 工学部 総合情報学部
倉敷芸術科学大学 (倉敷市連島町西之浦2640)	芸術研究科 産業科学技術研究科 人間文化研究科 芸術学部 産業科学技術学部 国際教養学部 生命科学部 芸術研究科(通信制) 産業科学技術研究科(通信制) 人間文化研究科(通信制) 産業科学技術学部(通信教育課程) 国際教養学部(通信教育課程)
千葉科学大学 (千葉県銚子市潮見町3)	薬学部 危機管理学部
岡山理科大学附属高等学校 (岡山市理大町1-1)	全日制課程、通信制課程
岡山理科大学附属中学校 (岡山市理大町1-1)	
岡山理科大学専門学校 (岡山市半田町8-3)	工業専門課程、商業実務専門課程、文化・教養専門課程、 文化・教養一般課程
玉野総合医療専門学校 (玉野市築港1丁目1-20)	医療専門課程、教育・社会福祉専門課程
倉敷芸術科学大学専門学校 (倉敷市連島町西之浦2640)	衛生専門課程、文化・教養専門課程

4. 事務組織図

(平成19年5月1日現在)



5. 沿革（抜粋）

- 昭和30年 4月 加計学園の出発点ともなった広島英数学館を、加計勉が創立
- 昭和36年 9月 学校法人加計学園認可、理事長に加計勉就任、岡山電機工業高等学校設置認可
- 昭和37年 4月 岡山電機工業高等学校開校（全日制） 初代校長に神崎栄一郎就任
- 昭和39年 1月 岡山理科大学設置認可
岡山理科大学設置認可にともない、岡山電機工業高等学校を岡山理科大学附属高等学校と改称
- 4月 岡山理科大学開学（理学部） 初代学長に加計勉就任
- 昭和42年 4月 岡山理科大学附属高等学校第2代校長として、内藤一人就任
- 昭和44年12月 真庭郡川上村に岡山理科大学蒜山研究所、蒜山学舎を開設
- 昭和48年10月 学校法人加計学園の所在地が岡山市の住居表示変更により、岡山市理大町と町名変更
- 昭和49年 4月 岡山理科大学大学院理学研究科修士課程を設置
岡山理科大学附属高等学校第3代校長として中尾寿夫就任
- 昭和50年 4月 岡山高等建築専門学院設置認可
5月 岡山高等建築専門学院開校（建築学科夜間部定時制） 初代校長に中尾寿夫就任
- 昭和51年 4月 岡山高等建築専門学院、専修学校法施行により岡山高等建築専門学校と改称
- 昭和53年 4月 岡山理科大学大学院理学研究科に博士課程（後期）を設置
- 昭和54年 4月 岡山理科大学大学院理学研究科修士課程に機械理学専攻、電子理学専攻を増設
- 昭和55年 4月 岡山理科大学第2代学長に、奥田毅就任
岡山理科大学附属高等学校第4代校長として、松本卓三就任
岡山高等建築専門学校昼間部を増設、第2代校長として片山誠二就任
- 7月 寄附行為変更により総長制度認可、初代総長に加計勉就任
- 昭和59年 4月 岡山理科大学第3代学長に、黒谷寿雄就任
- 昭和61年 4月 岡山理科大学工学部設置
岡山理科大学附属高等学校第5代校長として、三宅寛就任
岡山高等建築専門学校を岡山理科大学専門学校と改称
- 平成 2年 4月 岡山理科大学第4代学長に、加計勉就任
岡山理科大学大学院の理学研究科を改組し、工学研究科を設置
- 平成 4年 1月 岡山理科大学附属高等学校第6代校長として、加計晃太郎就任
4月 岡山理科大学附属高等学校第7代校長として、渡辺己巳生就任
- 平成 6年12月 倉敷芸術科学大学設置認可 初代学長に谷口澄夫就任
- 平成 7年 4月 倉敷芸術科学大学開学
- 平成 9年 4月 岡山理科大学総合情報学部を増設
12月 玉野看護福祉総合専門学校設置認可
- 平成10年 4月 玉野看護福祉総合専門学校を開校 初代校長に金政泰弘就任
岡山理科大学附属高等学校第8代校長として、三木輝知就任
岡山理科大学専門学校第3代校長として、村上侑就任
- 平成11年 4月 倉敷芸術科学大学第2代学長に土井章就任
倉敷芸術科学大学大学院開設
- 平成12年 4月 倉敷芸術科学大学教養学部を国際教養学部に変更
岡山理科大学附属高等学校通信制課程普通科を設置
- 平成13年 1月 学校法人加計学園第2代理事長・総長に加計晃太郎就任
4月 岡山理科大学大学院修士課程に総合情報研究科設置
倉敷芸術科学大学大学院芸術研究科に博士（後期）課程設置

- 平成13年 4月 玉野看護福祉総合専門学校を、玉野総合医療専門学校に名称変更
岡山理科大学第5代学長として、山村泰道就任
- 9月 岡山理科大学附属中学校設置認可
- 平成14年 4月 倉敷芸術科学大学大学院（通信制）設置
岡山理科大学附属高等学校第9代校長として、北尾正幸就任
岡山理科大学専門学校第4代校長として、逢坂一正就任
岡山理科大学附属中学校開校 初代校長として、善木道雄就任
- 平成15年 4月 倉敷芸術科学大学産業科学技術学部（通信教育課程）、国際教養学部（通信教育課程）を
設置
- 11月 千葉科学大学設置認可
- 平成16年 3月 倉敷芸術科学大学専門学校設置認可
- 4月 岡山理科大学第6代学長に宮垣嘉也就任
倉敷芸術科学大学生命科学部を設置
倉敷芸術科学大学国際教養学部募集停止
倉敷芸術科学大学国際教養学部（通信教育課程）募集停止
千葉科学大学開学 初代学長に平野敏右就任
倉敷芸術科学大学専門学校開校 初代校長に岡本繁通就任
- 平成17年 4月 岡山理科大学工学部知能機械工学科を設置
岡山理科大学工学部福祉システム工学科募集停止
倉敷芸術科学大学第3代学長に添田喬就任
倉敷芸術科学大学産業科学技術学部起業学科（通信教育課程）募集停止
岡山理科大学附属高等学校第10代校長に橋爪道彦就任
岡山理科大学附属中学校第2代校長に新倉正和就任
岡山理科大学専門学校第5代校長に圓堂稔就任
玉野総合医療専門学校第2代校長に岡田茂就任
- 平成18年 4月 岡山理科大学工学部応用化学科をバイオ・応用化学科に名称変更
倉敷芸術科学大学生命科学部生命動物科学科を設置
千葉科学大学薬学部薬学科を4年制から6年制に変更及び薬科学科を設置
- 平成19年 4月 岡山理科大学工学部生体医工学科を設置
岡山理科大学総合情報学部建築学科を設置
岡山理科大学工学部電子工学科を電気電子システム学科に名称変更
岡山理科大学総合情報学部コンピュータシミュレーション学科募集停止
倉敷芸術科学大学専門学校第2代校長に伊藤敏夫就任
岡山理科大学大学院理学研究科修士課程臨床生命科学専攻設置届出
倉敷芸術科学大学芸術学部美術工芸学科、デザイン学科、産業科学技術学部観光学科
設置届出
倉敷芸術科学大学芸術学部映像・デザイン学科、産業科学技術学部コンピュータ情報
学科、起業学科の名称変更届出
- 6月 倉敷芸術科学大学生命科学部生命医科学科設置届出
倉敷芸術科学大学専門学校を倉敷 食と器 専門学校に名称変更届出
- 平成19年 7月 千葉科学大学薬学部動物生命薬科学科設置届出
岡山理科大学理学部動物学科設置届出
- 12月 千葉科学大学大学院薬科学研究科、危機管理学研究科設置認可
- 平成20年 1月 岡山理科大学附属高等学校電気情報科設置認可

Ⅲ. 各事業の概要

1. 国際交流関係

(1) 教育交流協定の状況

国名	教育交流協定校	校数
中国	南開大学、北京科技大学、雲南大学、中山大学、河南科技大学、内モンゴウ智力引進外語專修学院、吉林国際語言文化学院、北京平成日本語学校、山東青州さくら日本語学校、成都瀨川日本語学校、中国管理軟件学院、北京城市学院、北京市実美職業学校、北京市民族文化芸術職業学校、北京市求实職業学校	15校
韓国	慶一学園、金剛学園（永同大学、亨硯高校）、鶴山学園（東ソウル大学）金龍学園（徳園女子高校）（徳園芸術高校）、桂林学園（正明高校）、清錫学園（清州大学）、純心教育財団（純心高校）、湖西学園（湖西大学）、江原大学、金泉大学、韓国防災協会	11校
台湾	大華技術学院、明新科技大学、南台科技大学、稲江科技暨管理学院、稲江高級商業職業学校、金甌女子高級中学、致理技術学院、海山高級工業職業学校、治平高級中学	9校
アメリカ	ライト大学、カリフォルニア大学バークレー校、ハワイ大学、フィンドリー大学、シェネンドーア大学、グアム大学	6校
イギリス	サンダーランド大学、オックスフォード大学、ケンブリッジ大学キャベンディッシュ研究所、ダービー大学	4校
ブラジル	パラナ・カトリカ大学、パラナ連邦大学、バンデイランテス高校	3校
スリランカ	ワヤンバ・ロイヤルカレッジ、マリヤデワ・カレッジ、マリヤデワ・バリーリッダヤーラヤ	3校
オーストリア	ヨハネス・ケプラー大学、リンツ工科造形芸術大学	2校
シンガポール	ニー・アン・ポリテクニク、シンガポール・ポリテクニク	2校
ベルギー	ブリュッセル自由大学、ゲント王立美術アカデミー	2校
フランス	リヨンI大学	1校
カナダ	モホーク大学	1校
タイ	パトゥムワン・デモンストレーション・スクール	1校

(2) 教育交流協定校との交流プログラム

受け入れ

- ①（中国）山東青州さくら日本語学校理事長ほか2名が来学 (H19.4.9～4.12)
- ②（タイ）パトゥムワン・デモンストレーション・スクール（高校）進路部長ほか3名が調印式のため、来学 (H19.4.10～4.12)
- ③（台湾）致理技術学院学生研修団が来学 (H19.5.28～6.6)
- ④（アメリカ）フィンドリー大学学生訪日研修団が来学 (H19.6.25～7.18)
- ⑤（ブラジル）パラナ連邦大学・カトリカ大学学生訪日研修団が来学 (H19.6.25～7.18)
- ⑥（アメリカ）ライト大学学生訪日研修団が来学 (H19.6.25～7.18)
- ⑦（台湾）金甌女子高級中学（高校）学生研修団が来学 (H19.7.2～7.11)
- ⑧（韓国）慶一学園高校生訪日研修団が来学 (H19.7.23～7.26)
- ⑨（台湾）南台科技大学学生訪日研修団が来学 (H19.9.25～10.4)
- ⑩（台湾）稲江科技暨管理学院学生訪日研修団が来学 (H20.1.29～1.31)
- ⑪（アメリカ）ライト大学仕事体験生計4名が来学
- ⑫（中国）北京城市学院学生訪日研修団が来学 (H19.9.28～10.7)

- ⑬ (ブラジル) パラマ連邦大学学長ほか3名が来学 (H19. 9. 17～9. 22)
 ⑭ (台湾) 致理技術学院日本語学部長ほか1名が来学 (H19. 7. 17～7. 18)

(3) 学生研修団海外派遣

- ①アメリカ研修 (ライト大学) (H19. 8. 1～8. 19)
 ②ブラジル研修 (パラナ連邦大学、パラナ・カトリカ大学) (H19. 8. 7～8. 29)
 ③アメリカ研修 (フィンドリー大学) (H19. 8. 22～9. 14)
 ④台湾研修 (南台科技大学) (H19. 8. 5～8. 11)

(4) その他

- ① (中国) 陝西省大学生日本語弁論大会優勝者訪日団計4名が来学 (H19. 4. 19)
 ② (アメリカ) ハーバード大学研修生1名が来学 (H19. 6. 16～8. 10)
 ③ (台湾) 台北商業技術学院学長ほか3名が来学 (H19. 8. 28)
 ④ (韓国) 加計学園韓国支局長ほか1名が来学 (H19. 6. 5～6. 8)

[協定締結]

- (中国) 中国管理軟件学院と教育交流協定締結 (H19. 4. 1)
- (中国) 北京城市学院と教育交流協定締結 (H19. 6. 12)
- (中国) 北京市実美職業学校と教育交流協定締結 (H19. 6. 12)
- (中国) 北京市民族文化芸術職業学校と教育交流協定締結 (H19. 6. 12)
- (タイ) パトゥムワン・デモンストレーション・スクールと教育交流協定締結 (H19. 7. 20)
- (台湾) 国立海山高級工業職業学校と教育交流協定締結 (H19. 7. 26)
- (台湾) 私立治平高級中学と教育交流協定締結 (H19. 7. 26)
- (スリランカ) ワヤンバ・ロイヤル・カレッジと教育交流協定締結 (H19. 10. 17)
- (スリランカ) マリヤデワ・カレッジと教育交流協定締結 (H19. 10. 17)
- (スリランカ) マリヤデワ・バーリカ・ウィッダヤーラヤと教育交流協定締結 (H19. 10. 17)
- (中国) 北京求实職業学校と教育交流協定締結 (H20. 2. 29)
- (韓国) 学校法人信泉学園と教育交流締結 (H20. 3. 17)

(5) 留学生在籍者数

(平成19年5月1日現在)

大 学 名		人 数	国 籍 別
岡山理科大学	大学院	14人	中国：10 ベトナム：2 韓国：1 マレーシア：1
	学 部	55人	中国：48 マレーシア：7
	研究生	0人	
	計	69人	
倉敷芸術科学大学	大学院	7人	中国：7
	学 部	59人	中国：54 韓国：4 インドネシア：1
	研究生	2人	中国：2
	別 科	20人	中国：20
計	88人		
千葉科学大学	学 部	92人	中国：80 韓国：9 ジンバブウェ：1 コンゴ民主共和国：1 スリランカ：1
	研究生	1人	中国：1
	計	93人	

2. 財務關係資料

■ 受託研究、共同研究、科学研究費補助金

学部等名	受託 研究	共同 研究	科学研究費補助金	
			件数	補助金額
岡山理科大学	26件	17件	35件	71,070,000円
理学部(含自然科学研究所)	13件	5件	18件	25,520,000円
工学部	9件	9件	10件	33,810,000円
総合情報学部	4件	3件	7件	11,740,000円
倉敷芸術科学大学	2件	7件	2件	4,480,000円
芸術学部	1件	1件	1件	3,520,000円
産業科学技術学部		6件		
生命科学部	1件		1件	960,000円
千葉科学大学	4件	1件	13件	20,560,000円
薬学部	2件		7件	12,060,000円
危機管理学部	2件	1件	6件	8,500,000円
岡山理科大学専門学校	4件			
倉敷芸術科学大学専門学校	1件			

3. 決算概要

(1) 資金収支計算書

(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

収入の部 (単位：円)

科 目	金 額
学生生徒等納付金収入	15,523,313,073
手数料収入	241,444,210
寄付金収入	128,304,400
補助金収入	2,171,472,266
資産運用収入	207,609,601
資産売却収入	405,225,000
事業収入	110,473,818
雑収入	349,386,091
借入金等収入	692,840,000
前受金収入	2,258,925,000
その他の収入	3,301,730,884
資金収支調整勘定	△ 3,047,431,436
前年度繰越支払資金	18,196,015,151
計	40,539,308,058

支出の部

科 目	金 額
人件費支出	11,386,142,982
教育研究経費支出	3,656,325,867
管理経費支出	1,109,257,815
借入金等利息支出	221,253,932
借入金等返済支出	1,168,378,400
施設関係支出	165,611,273
設備関係支出	402,827,915
資産運用支出	3,043,451,824
その他の支出	871,800,126
資金支出調整勘定	△ 460,983,177
次年度繰越支払資金	18,975,241,101
計	40,539,308,058

(2) 消費収支計算書

(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

消費収入の部 (単位：円)

科 目	金 額
学生生徒等納付金	15,523,313,073
手数料	241,444,210
寄付金	148,718,045
補助金	2,171,472,266
資産運用収入	207,609,601
資産売却差額	105,225,000
事業収入	76,474,640
雑収入	349,386,091
帰属収入合計	18,823,642,926
基本金組入額合計	△ 111,012,192
消費収入の部合計	18,712,630,734

消費支出の部 (単位：円)

科 目	金 額
人件費	11,399,342,632
教育研究経費	5,753,328,954
管理経費	1,609,836,595
借入金等利息	221,253,932
資産処分差額	42,955,616
徴収不能額	5,305,255
消費支出の部合計	19,032,022,984
当年度消費支出超過額	319,392,250
前年度繰越消費支出超過額	5,175,273,254
翌年度繰越消費支出超過額	5,494,665,504

(3) 貸借対照表 (平成20年3月31日)

資産の部		(単位:円)
科 目	金 額	
固定資産	65,507,141,132	
有形固定資産	58,875,405,666	
その他の固定資産	6,631,735,466	
流動資産	20,653,504,639	
資産の部合計	86,160,645,771	

負債の部

科 目	金 額
固定負債	12,569,270,547
流動負債	3,636,194,987
負債の部合計	16,205,465,534

基本金の部

科 目	金 額
基本金の部合計	75,449,845,741

消費収支差額の部

科 目	金 額
翌年度繰越消費支出超過額	△ 5,494,665,504
消費収支差額の部合計	△ 5,494,665,504
科 目	金 額
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	86,160,645,771

(4) 財産目録 (平成20年3月31日)

財産目録		(単位:円)
科 目	金 額	
一 資産額		
(一) 基本財産	65,277,852,162	
1. 土地	15,332,324,322	
借地権	388,140,000	
2. 建物	28,593,729,458	
(1) 校舎	22,751,302,629	
(2) 図書館	436,371,128	
(3) 体育館	2,543,330,077	
(4) 寄宿舍	433,703,233	
(5) 倉庫	25,645,820	
(6) その他	2,403,376,571	
3. 建設仮勘定	980,000	
4. 構築物	2,455,834,856	
5. 図書	6,280,475,133	
6. 教具・校具・備品	6,202,418,341	
7. 車両運搬具	9,643,556	
8. 積立金	3,814,306,496	
9. 特定資産	2,200,000,000	
(二) 運用財産	20,882,793,609	
1. 預金、現金	18,975,241,101	
2. 出資金	68,059,400	
3. 有価証券	1,069,362,377	
4. 未収金	524,395,936	
5. 長期貸付金	0	
6. 仮払金	2,708,430	
7. 差入保証金	161,229,570	
8. 前払金	80,009,281	
9. 貯蔵品	1,787,514	
合 計	86,160,645,771	
二 負債額		
1. 固定負債	12,569,270,547	
(1) 長期借入金	11,182,182,900	
(2) 学校債	11,130,000	
(3) 退職給与引当金	1,375,957,647	
2. 流動負債	3,636,194,987	
(1) 短期借入金	538,578,400	
(2) 学校債	4,580,000	
(3) 未払金	372,827,106	
(4) 前受金	2,258,925,000	
(5) 預り金	446,730,250	
(6) 仮受金	14,554,231	
合 計	16,205,465,534	

(5) 財務比率

消費収支計算書及び貸借対照表に基づく財務比率について、下表で本学の経年比率を示しました。

区 分		16年度	17年度	18年度	19年度	
分類	比 率	算式 (×100)				
貸 借 対 照 表	消費収支差額構成比率	$\frac{\text{消費収支差額}}{\text{総 資 金}}$	△4.0%	△4.8%	△5.9%	△6.4%
	基本金比率	$\frac{\text{基 本 金}}{\text{基本金要組入額}}$	82.5%	85.5%	86.0%	86.5%
	固定比率	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{自 己 資 金}}$	94.0%	97.6%	96.3%	93.6%
	固定長期適合率	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{自己資金+固定負債}}$	78.4%	82.1%	81.3%	79.4%
	流動比率	$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}}$	328.0%	456.3%	500.8%	568.0%
	前受金保有率	$\frac{\text{現 金 預 金}}{\text{前 受 金}}$	654.8%	624.4%	721.2%	840.0%
	総負債比率	$\frac{\text{総 負 債}}{\text{総 資 産}}$	23.8%	19.9%	19.4%	18.8%
	負債率	$\frac{\text{総負債-前受金}}{\text{総 資 産}}$	20.3%	17.1%	16.5%	16.2%
	基本金実質組入率	$\frac{\text{自 己 資 金}}{\text{基本金要組入額}}$	78.3%	80.7%	80.1%	80.2%
消 費 収 支 計 算 書	人件費比率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{帰 属 収 入}}$	42.7%	47.7%	58.9%	60.6%
	教育研究経費比率	$\frac{\text{教 育 研 究 経 費}}{\text{消 費 支 出}}$	32.4%	32.5%	30.5%	30.2%
	管理経費比率	$\frac{\text{管 理 経 費}}{\text{帰 属 収 入}}$	6.1%	7.6%	8.9%	8.6%
	消費支出比率	$\frac{\text{消 費 支 出}}{\text{帰 属 収 入}}$	73.7%	83.5%	100.3%	101.1%
	【経常経費依存率】	$\frac{\text{消 費 支 出}}{\text{学生生徒等納付金}}$	115.0%	120.0%	123.6%	122.6%
	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学 生 生 徒 等 納 付 金}}{\text{帰 属 収 入}}$	64.1%	69.6%	81.2%	82.5%
	寄付金比率	$\frac{\text{寄 付 金}}{\text{帰 属 収 入}}$	5.3%	0.8%	0.7%	0.8%
	補助金比率	$\frac{\text{補 助 金}}{\text{帰 属 収 入}}$	27.2%	26.3%	13.6%	11.5%
	基本金組入率	$\frac{\text{基 本 金 組 入 額}}{\text{帰 属 収 入}}$	36.4%	22.3%	4.8%	0.6%

学校法人 加計学園 平成19年度事業報告 【岡山理科大学】

I. 事業の概要（全般）

《申請関係》

- (1) 大学院理学研究科臨床生命科学専攻（修士課程）の設置届を提出しました。
また、同専攻の教免課程認定の申請を行いました。
- (2) 理学部動物学科の設置届を提出しました。
また、同学科の教免課程認定の申請を行いました。
- (3) 工学部バイオ・応用化学科に好適環境水によるアクアバイオコースを開設する学則変更届を提出しました。

《人事、組織》

- (1) 任期満了に伴う学長改選が行われ平成20年度より波田善夫氏が就任することとなりました。
- (2) 大学院事務室を廃止し、業務内容に応じた部署に業務を移管しました。
- (3) 入試業務と広報業務の連携強化のため、入試部と広報室を統合し、入試広報部を設置しました。
- (4) 図書館事務室の雑誌情報課と図書情報課とを統合して、資料情報課にしました。
- (5) 岡山理科大学事務局長には、渡邊良人氏（千葉科学大学事務局長）が就任しました。

《教育関係》

- (1) ノーベル物理学賞受賞者小柴昌俊先生講演会を開催しました。（H19.5.29実施）
- (2) 工学部生体医工学科を開設しました。（平成19年4月）
- (3) 工学部機械システム工学科が技術者教育プログラム（JABEE）の中間審査を10月に受審し、結果、認定継続（2007年4月1日から3年間）となりました。
- (4) 工学部電子工学科を電気電子システム学科に名称変更しました。（平成19年4月）。
- (5) 総合情報学部建築学科を開設しました。（平成19年4月）
- (6) 中国管理軟件学院との教育交流協定締結（H19.4.1締結）により、平成20年度編入学生受け入れ募集を行いました。
- (7) 下関国際高等学校との間で教育交流協定締結（H19.8.2）によりメディアを利用して行う授業による高大連携を開始しました。
- (8) 岡山後楽館高等学校との間で教育交流協定が締結されました。（H19.12.17）これに基づき、平成20年度より「高校生の大学授業体験」受け入れを開始いたします。
- (9) 加計学園と津曲学園鹿児島高等学校との間で教育交流協定が締結されました。（H19.11.27）
- (10) 「大学コンソーシアム岡山」に環太平洋大学が参加したことに伴い16大学間で改めて単位互換に関する協定が締結されました。（H19.10.1）
- (11) 岡山県立児童会館と連携協力に関する協定が締結されました。（H19.12.12）
- (12) 卒業発表コンテストを開催しました。（H20.2.29）

II. 大学の概要

1. 学生の定員現員数

(平成19年5月1日現在)

研究科・学部・学科等		定員数		現員数				
		入学定員	収容定員	1年	2年	3年	4年	合計
大学院	理学研究科(修士)	67	134	81	89	—	—	170
	" (博士)	13	39	6	7	2	—	15
	工学研究科(修士)	68	136	42	55	—	—	97
	" (博士)	5	15	0	2	4	—	6
	総合情報研究科(修士)	27	54	34	30	—	—	64
	" (博士)	2	6	2	6	5	—	13
	計	182	384	165	189	11	—	365
理学部	応用数学科	85	340	101	125	105	93	424
	化学科	75	315	74	68	82	82	306
	応用物理学科	75	300	52	68	75	56	251
	基礎理学科	80	315	69	95	113	82	359
	生物化学科	90	360	103	126	114	98	441
	臨床生命科学科	85	330	103	98	116	89	406
	計	490	1,960	502	580	605	500	2,187
工学部	バイオ・応用化学科	80	350	50	78	83	89	300
	機械システム工学科	85	355	86	94	99	100	379
	電気電子システム学科	70	340	61	66	82	101	310
	情報工学科	85	415	95	132	102	115	444
	福祉システム工学科	—	70	—	—	2	73	75
	知能機械工学科	70	210	37	42	65	—	144
	生体医工学科	60	60	54	—	—	—	54
	計	450	1,800	383	412	433	478	1,706
総合情報学部	情報科学科	80	350	74	85	103	76	338
	コンピュータコミュニケーション学科	—	120	—	16	32	35	83
	生物地球システム学科	80	320	70	76	100	81	327
	社会情報学科	70	280	72	73	50	79	274
	建築学科	80	80	59	—	—	—	59
	計	310	1,150	275	250	285	271	1,081
(学部計)		1,250	4,910	1,160	1,242	1,323	1,249	4,974
	理学専攻科	30	30	—	—	—	—	—
	教職特別課程	50	50	9	—	—	—	9
合計		1,512	5,734	1,334	1,431	1,334	1,249	5,348

(単位：人)

2. 学年暦

	春季休業	入学宣誓式	夏季休業	冬季休業	学年末休業	学位記授与式
岡山理科大学	4月1日 ～ 4月5日	4月3日	8月6日 ～ 9月19日	12月27日 ～ 1月6日	3月4日 ～ 3月31日	3月20日

Ⅲ. 各事業の概要

1. 教育・研究活動の進捗状況

《教育関係》

- (1) 第三者評価（大学基準協会の相互評価）の結果をもとに全学的なカリキュラムの見直しを行いました。
- (2) 導入教育や低学力の学生を支援しました。
- (3) 日本マレーシア高等教育大学連合プログラム（JAD）（3年次編入）が始まりました。
今年度現在の状況：海外からの志願者8人の内6人が合格しました。
- (4) 日本国際教育大学連合（JUCTe）によるインドネシアのブラジャヤ大学からの大学院修士ツイニングプログラムを検討、実施に向けて受入れのための法整備を行いました。
- (5) 加計グループ大学間連携協力を推進しました。

《研究関係》

- (1) ハイテク・リサーチ・センター整備事業
工学研究科の大寺純蔵教授を研究代表者として、平成18年度から新規3年計画で開始され、2年目が終了しました。
- (2) 学術フロンティア推進事業
理学研究科の金子敏明教授を研究代表者として、平成15年度から継続5年計画で開始し、平成19年度で事業を終了しました。
- (3) オープン・リサーチ・センター整備事業
自然科学研究所の板谷徹丸教授を研究代表者として、平成17年度から新規5年計画で開始し、平成19年度で3年目を迎えたため、文部科学省に中間報告を提出しました。
- (4) 社会連携研究推進事業
工学研究科の金枝敏明教授を研究代表者として、平成18年度から新規5年計画で開始し、平成19年度で2年目を迎えました。

《学外連携》

- (1) 競争的研究資金の獲得の推進、共同研究や受託研究をコーディネートし、適正な執行に努めました。
 - ① 科研費 35件、71,070千円
 - ② 科研費以外の研究費助成金 16件、11,300千円
 - ③ 共同研究 17件、25,830千円
 - ④ 受託研究 26件、44,042千円
- (2) 研究シーズの公開の企画と技術発表会への参加を推進しました。
 - ① 「OUSフォーラム2007」の開催（H19.11.22；岡山（於））
 - ② 「CIC東京新技術説明会」参加 2名（H19.7.27、H20.1.25；東京（於））
 - ③ 「産学技術交流マッチング」参加 1名（H19.7.25；大阪（於））
 - ④ 「岡山リサーチパーク研究・展示発表会」参加 14名（H20.2.1日；岡山（於））
- (3) 教員の研究成果の知的財産権化の推進をしました。
 - ① 「特許セミナー」を2回開催（特許相談会も併せて開催）
 - ② 本学より特許出願7件
 - ③ 本学出願特許による民間企業への有償技術移転3件
- (4) 研究室及び研究機器等を外部へ公開しました。
 - ① 岡山県主催 100研究室訪問 2回開催（浜田研究室、愛甲研究室）

- (5) 学内研究者の地域産業界との交流を推進しました。
- ①岡山県主催 100社訪問参加 月2回開催
 - ②中小企業金融公庫岡山支店主催の交流会参加
 - ③おかやま信用金庫主催の交流会参加
- (6) 委託公開講座（生涯学習大学；8日間延べ16講座）を開講しました。
- ①H19.9.1からH19.10.20の間、毎週土曜日に開講、受講生23名
- (7) 産学官連携等の種々データをまとめ、【学外連携白書2006】を作成しました。
- 〔H19.11に発行（平成18年度版）〕

《施設・設備関係》

(1) 施設・環境整備関係 (73,900千円)	(千円)
① 第3・7・8号館のチャイム設置工事を実施しました。	2,850
② 第5号館第5号館廊下改修工事を実施しました。	7,313
③ 第5号館3階、4階及び第九学舎1階JABEE室・3階実験室等改修工事を実施しました。	9,373
④ 第十学舎（11031・11071講義室の間仕切り）改修工事を実施しました。	8,343
⑤ 第六学舎講義室改修工事を実施しました。	3,605
⑥ 第21号館防火用採水口設置工事を実施しました。	423
⑦ 岡山理科大学学南町研修館下水道切替工事を実施しました。	1,100
⑧ 土地購入（倉敷市川西町）をしました。	20,756
⑨ 25号館5F学習相談室設置改修工事を実施しました。	4,893
⑩ 9号館（本部）1階2階改修工事を実施しました。	15,244
(2) 設備・補助金関係 (217,603千円)	
① 6チャンネル人工股関節検査システム（社会連携研究推進事業による大型機器）を購入しました。（補助金名：私立学校施設整備費補助金：19,337千円）	45,500
② 動物細胞培養システム（社会連携研究推進事業による大型機器）を購入しました。（補助金名：私立大学等研究設備整備費補助金：6,300千円）	9,450
③ ICP質量分析装置（社会連携研究推進事業による大型機器）を購入しました。（補助金名：私立大学等研究設備整備費補助金：23,100千円）	34,650
④ サイバーキャンパス基盤ネットワークシステム事業（情報処理センター）（H18.10～）のリース料の支払いをしました。	63,630
⑤ 光物性測定システムを購入しました。（補助金名：私立大学等研究設備整備費補助金：21,000千円）	31,500
⑥ 自動制御静的加力装置一式を購入しました。（補助金名：私立大学等研究設備整備費補助金：10,262千円）	15,393
⑦ サイバーキャンパス基盤ネットワークシステム（Network）保守を実施しました。	15,000
⑧ 第十学舎（11031・11071講義室）改修工事に伴う什器備品を購入しました。	2,480
(3) 届出・申請関係 (5,345千円)	
① 理学部 臨床生命科学科に関する事業計画を実施しました。 図書・学術雑誌	3,900
② 工学部 生体医工学科に関する事業計画を実施しました。 図書・学術雑誌（創設費）	770
③ 総合情報学部 建築学科に関する事業計画を実施しました。 図書・学術雑誌（創設費）	675

《FD・SD》

(1) FDの一環として、各学部の退学者削減の取り組みをFD講演会で発表しました。

(H19.11.29実施)

(2) SDの一環として、地方の大学として成功している松本大学の事務局長小倉宗彦氏を講師に迎え、講演会を開催しました。(H19.12.7実施) 演題「地域と共に活性化するための経営戦略」

入学者数・卒業者数等は下表のとおりです。

入学者数一覧 (平成19年5月1日現在)

		入学者	留学生	社会人
大学院	博士	8	1	0
	修士	157	2	0
学部		1,160	26	1
専攻科		0	0	0
教職課程		9	0	0

(単位：人)

卒業者数等一覧

		卒業 者 ・ 修了 者	退学者	満期退学者	除籍者	休学者	留年者
大学院	博士	8	5	1	0	0	1
	修士	165	6	0	1	0	7
学部		1,223	134	0	13	55	258
専攻科		0	0	0	0	0	0
教職課程		9	0	0	0	0	0

(単位：人)

2. 学生の募集・広報

広報活動の充実を図り、学生募集の拡大に努めました

3. 就職活動状況

■就職支援内容について

- (1) 就職ガイダンスについては、3年次生の5月末より第1回を行い2月までに計6回実施しました。
- (2) 低学年から就職意識の向上を目的として低学年対象の進路・就職ガイダンスを行いました。1年次生には4月の新入生オリエンテーション期間中に1回、2年次生には6月、11月、12月と3回実施しました。
- (3) 3年次生では就職模擬テストや就職筆記試験対策講座、業界セミナーなど就職筆記試験対策や業界研究といった採用試験に向けての事前準備のセミナー類を行い、模擬試験・適性試験を2回、セミナーは延べ回数にして20回、就職筆記試験対策講座は通年計画で22回行い、約400名が受講しました。
- (4) 今年度より、公務員試験対策講座を就職筆記試験対策講座との整合性・学習内容の整理を行った上で開催しました。2年次生から始まる2年間コースでは、102コマ。3年次生の1年コースは77コマを開講し、3年次生90名、2年次生55名が受講しました。
- (5) 学内で、3年次生・修士1年次生を対象とした就職シンポジウムを開催しました。内定者の就職活動報告会である、「内定者から聞く」を11月に実施しました。また、今年度新たに、企業の人事担当者を招き、採用したい学生像や選考のポイント等をホンネで語ってもらう「今やるべきことと企業のホンネ」を10月に開催しました。
- (6) 進路や就職に対する、意識の充実・向上のため、就職支援マガジン「ME (MAGAZINEFOREMPLOYMENT)」シリーズの内容充実を図り、1年次生向け「Vo1.1」(大学4年間の過ごし方)、2年次生向け「Vo1.2」(進路について考える)、3年次生・M1次生向け「Vo1.3」(就職活動実践テクニック)を作成し、ガイダンスで説明配布を行いました。
- (7) 大学の就職支援内容を、高校生及び保護者並びに高校の進路指導者に周知することを目的に、入試合格者を対象に大学4年間の支援体制を、「Vo1.0」としてパンフレットを作成し昨年同様に送付しました。
- (8) 2月には企業の採用担当者と学生の情報交換を行う、合同企業説明会を開催し、約315社の採用担当者と700人の3年次生・修士1年次生が面談しました。
- (9) 教職員と採用担当者との情報交換を目的とした就職懇談会を関連校と共催で開催しました。昨年度に続き首都圏における活発な雇用状況から、東京をはじめ、岡山、大阪、広島、福岡の計5都市にて開催しました。(企業数約1198社で1749名出席)
- (10) 4月には3、4年次生の学生と保護者を集めて「就職・進路懇談会」を実施し313組が出席しました。今年度の本学の就職状況や就職環境を保護者の方々へ説明しました。
- (11) 就職情報誌主催の合同企業説明会等へバスで引率(大阪2回、広島1回)し、のべ400名を超える学生が参加しました。これらの合同企業説明会は、全国規模で展開する企業や、特殊分野の企業が参加しており、企業研究、就職活動への意欲向上に繋がりました。
- (12) 求人情報を広く収集し、今年度は全国から求人情報3865件(昨年比+15%)の求人がありました。求人情報は、例年すべてデータ入力を行い、学生が希望の条件で検索できるようにしています。また、地域ごとに求人票およびパンフレットを保存し学生が自由に閲覧できるように整備しています。
- (13) 就職部ホームページで学生に就職支援情報を告知しました。求人情報3865件(昨年比+17%)、学内・学外会社説明会情報などを掲載し、学生に広く情報を提供しました。
- (14) 学生に向けて広く情報を提供するため、大学のメーリングリストを利用し、求人情報・ガイダンスやセミナーの案内をメール配信しました。
- (15) 学生の企業研究等に役立てるため、約10万件の企業情報を更新しました。

(16) 19年度も例年どおり、3月に卒業した学生を対象に、進路決定に関する活動の実態や進路に関する満足度や本学の就職支援の内容に対する満足度等を調査分析するため「進路に関するアンケート」を実施しました。就職する企業への満足度は84%（昨年比+5%）でありました。

■就職率および就職率の推移(2008年3月20日現在)

- (1) 平成19年度の就職率は全体で97%（昨年比-1%）となりました。
- (2) 学部別では理学部96%、工学部97%、総合情報学部97%となり、大学院全体では99%となっています。
- (3) 地域別就職先では関東25%、東海7%、近畿21%と都市圏での就職が18年度に引き続き回復・増加しています。都市圏の増加にともない岡山県の割合は25%（-6%）となりました。
- (4) 業種別就職先割合では、情報20%（+1%）、機械8%（-3%）、公務員1%（-3%）、サービス12%（-10%）、卸売12%（+6%）となりました。

4. 財務関係

主な収入及び支出

(単位：千円)

年度 科目	18年度決算額	19年度決算額
学納金収入	8,173,552	7,761,787
補助金収入	1,531,070	1,186,642
その他収入	370,631	490,883
帰属収入合計	10,075,253	9,439,312
基本金組入額合計	△ 746,392	△ 80,064
消費収入の部合計	9,328,861	9,359,248
人件費	5,178,832	5,403,545
教育研究経費	2,982,329	2,849,372
管理経費	553,670	525,034
その他支出	170,297	150,481
消費支出の部合計	8,885,128	8,928,432

○収支改善対策の具体的取組と効果

18歳人口の減少によって学生数の確保が困難で、学生生徒等納付金収入の増額が見込めない状況下であることから、学生生徒等納付金収入だけに頼らない財務体質を目指すべく、科学研究費補助金や寄付金および各種補助金等への申請や企業との共同研究、受託研究等で積極的に外部資金を獲得するよう教員に求めています。

学校法人 加計学園

平成19年度事業報告

【 倉敷芸術科学大学 】

I. 事業の概要（全般）

《申請関係》

平成20年度に向けて、芸術学部を美術工芸学科（定員45名）、メディア映像学科（定員30名）、デザイン学科（定員35名）に改組し、デジタルフォトコースなど17コースを設け、産業科学技術学部では、IT科学科（定員40名）、起業経営学科（定員30名）に名称変更・定員変更、さらに観光学科（定員40名）を新設して、20名の定員増を行ないました。また、生命科学部では生命動物科学科に3年次編入学定員（8名）を増員、更に生命科学科（定員80名）を分離し、生命医科学科（定員40名）新設と生命科学科（定員40名）には医療工学コース、生命化学コース、フードサイエンスコース、マリンバイオサイエンスコースの4コースを設けました。

《人事》

教員役職者の任期満了に伴い、通信教育課程に主任を、統合された入試広報部に入試広報部長を新たに設け、それ以外の役職者は一部を除いて再任されました。

《教育研究計画》

- （1）生命科学部生命動物科学科について、年次進行に伴い、教育環境を整備しました。
- （2）学生の満足度を上げるため、更なる改革、退学者の減少対策を進めました。
- （3）開学して13年目となるため、施設・設備の修繕等の必要が生じており、年次計画により修繕、設備の更新を行ないました。
- （4）文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）に採用された取組である「人生を展望した総合的キャリア教育の実践」を年次計画に基づき実施しました。

（実施期間 18年度～20年度 総事業費 17,630千円）

《組織関係》

業務改善、合理化のため、庶務部学部事務課を庶務課に統合、学生部厚生課を学生課に統合しました。

入試業務と広報業務の連携強化のため、入試部と広報室を統合し、入試広報部を設置しました。

II. 大学の概要

1. 学生の定員現員数

(平成19年5月1日現在)

研究科・学部・学科等			定員数		現員数					
			入学定員	収容定員	1年	2年	3年	4年	合計	
通	大	芸術研究科(修士)	20	40	8	14	—	—	22	
		〃 (博士)	4	12	1	2	2	—	5	
		学	産業科学技術研究科(修士)	16	32	12	10	—	—	22
			〃 (博士)	4	12	1	3	4	—	8
			人間文化研究科(修士)	15	30	3	4	—	—	7
大学院 計			59	126	25	33	6	—	64	
学	学	芸術	美術学	40	160	46	41	41	40	168
		映像・デザイン	40	160	42	55	43	53	193	
		工学	工芸・デザイン	30	160	21	35	48	37	141
		計	110	480	109	131	132	130	502	
	部	産業科学技術学部	コンピュータ情報学科	50	260	35	50	61	77	223
		生命化学科	—	—	—	—	1	5	6	
		起業学科	30	150	39	28	37	27	131	
	計	80	410	74	78	99	109	360		
	部	国際教養学部	教養学科	—	—	—	—	1	1	2
		起業学科	—	—	—	—	1	3	4	
計		—	—	—	—	2	4	6		
部	生命科学部	生命科学科	90	400	94	104	131	112	441	
	健康科学科	60	210	70	70	70	51	261		
	生命動物科学科	60	100	85	49	—	—	134		
計	210	710	249	223	201	163	836			
学部 計			400	1,600	432	432	434	406	1,704	
通学制 計			459	1,726	457	465	440	406	1,768	
通	大	芸術研究科(修士)	10	20	5	6	—	—	11	
		産業科学技術研究科(修士)	20	40	0	1	—	—	1	
		人間文化研究科(修士)	30	60	5	5	—	—	10	
	通信制大学院 計			60	120	10	12	—	—	22
	信	学	産業科学技術学部	コンピュータ情報学科	200	1,300	5	10	11	18
起業学科			—	300	—	—	—	1	1	
計			200	1,600	5	10	11	19	45	
部	国際教養学部	起業学科	—	300	—	—	—	3	3	
通信学部 計			200	1,900	5	10	11	22	48	
通信制 計			260	2,020	15	22	11	22	70	
留学生別科			30	30	20	—	—	—	20	
合計			749	3,776	492	487	451	428	1,858	

(単位：人)

2. 学年暦

	春期休業	入学宣誓式	夏期休業	冬期休業	学年末休業	学位記授与式
倉敷芸術科学大学	4月1日 ～4月4日	4月5日	8月3日 ～9月23日	12月19日 ～1月7日	3月4日 ～3月31日	3月23日

Ⅲ. 各事業の概要

1. 教育・研究活動の進捗状況

- (1) 一人ひとりの学生に視点をあわせた教育を行い、少しでも退学者の減少に繋がるよう力を入れ、平成18年度4.7%だった退学除籍率を4.2%に減少させました。
- (2) 加計教育コンソーシアム、大学コンソーシアム岡山を活用して、他大学の特色ある講義を開講しました。
- (3) 産学官連携（岡山TLO等）、高大連携を通じて、大学の地域貢献によって社会的使命を果たすと共に、外部資金の獲得にも力を入れました。

《FD・SD》

FD及びSDの一環として講演会を開催しました。

- (1) FD講演会「STOP! ハラスメント～あなたが加害者にならないために～」
講師 菊池綜合法律事務所 菊池捷男氏 (H19.6.27実施)
- (2) SD講演会「インターネット安全教室」
講師 中国経済産業局 大原晃洋氏 他2名 (H19.11.29実施)
- (3) FD講演会「倉敷が大学に期待するもの」
講師 倉敷商工会議所 副会頭 岡荘一郎氏 (H19.12.5実施)

《施設・設備関係》

- (1) 施設の整備（総額33,668千円）
建物支出（31,935千円）
 - ・5号館実習室他改修工事（17,434千円）
 - ・加計美術館加計グループ創立者加計勉記念コーナー等改修工事（14,501千円）構築物支出（1,733千円）
 - ・校内照明設備工事（1,733千円）
- (2) 設備の整備（総額77,746千円）
教育研究用機器備品支出（39,516千円）
 - ・生命科学部実験・実習用機器（13,533千円）
 - ・全学部・学科実習用機器（25,983千円）
 - ・実習用パソコン（15,000千円）リース導入
 - ・全学ネットワーク機器更新（110,000千円）リース導入
 - ・語学実習設備（CALLシステム）（30,900千円）リース導入図書支出（38,230千円）
 - ・生命動物科学科図書52冊（1,760千円）創設
 - ・全学部・学科用図書（36,470千円）

《補助金関係》

- (1) 文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）の実施 5,500千円
- (2) 科学研究費補助金 基盤研究(C)（一般）2件 3,640千円（840千円）
- (3) 受託研究 2件 8,750千円 共同研究 7件 7,000千円
- (4) 寄付金 4件 3,600千円

入学者数・卒業生数等は下表のとおりです。

入学者数一覧 (平成19年5月1日現在)

		入学者	留学生	社会人
大学院	博士	2	0	1
	修士	23	3	0
大学院 (通信制)		10	0	—
学部		432	20	2
学部 (通信教育課程)		5	0	—
別科		20	20	—

(単位：人)

卒業生数等一覧 (平成19年度)

		卒業生・ 修了者	退学者	満期退学者	除籍者	休学者	留年者
大学院	博士	3	0	2	0	0	1
	修士	22	3	0	0	0	0
大学院 (通信制)		10	0	0	1	0	0
学部		395	60	0	11	10	11
学部 (通信教育課程)		10	2	0	5	1	0
別科		18	0	0	0	0	0

(単位：人)

2. 学生の募集・広報活動

少しでも志願者、入学者の増加を目指し、従来の基本路線を継承しつつ、新たな取組みを行いました。

3. 就職活動状況

- (1) 2、3年次生を対象に職業適性自己理解テストおよびSPI試験を2回実施して、自己分析を促しました。4年次生は、学部・学科・専攻・コースにより就職・進路状況が異なるため、個別相談に力を注ぎました。
- (2) 各学部ごとにスタッフを配置し、個々の学生と連絡を取り、履歴書の書き方、面接指導等に重点を置きながら指導を徹底しました。
- (3) 企業訪問（採用情報収集、採用依頼）、医療機関への求人依頼を積極的に行い、希望地域、業種の情報収集を行いました。
- (4) 企業担当者を学内に招き、学生との個別面談等を行う学内企業懇談会を2月に3年生を対象に実施し、早期の就職活動の支援を行いました。
- (5) 合同就職懇談会（10月福岡、11月東京、3月大阪・広島で企業担当者と教職員の情報交換会）を行ないました。
- (6) インターンシッププログラムを計画し、できるだけ多くの学生が参加できるように検討しました。
- (7) 3年次生対象のガイダンスを下記のとおり実施します。
- ・就職ガイダンス15回開催。
 - ・職業適性自己理解テスト1日5回3日間実施
 - ・SPI適性模擬検査2回実施
 - ・就職対策講座2日間開催
 - ・公務員採用試験対策講座2回開催
 - ・4年次生による企業内定者報告会2回開催
 - ・企業担当者による業界説明会4回開催
 - ・OB・OG報告会開催
 - ・就職実践模試(START)エントリーシート攻略テスト6日間実施
 - ・就職対策講座5日間開催
 - ・模擬面接：（個別、グループ面接）指導随時実施

(8) 就職率及び就職率の推移

区分	年度	修了者数	就職希望者数 A	就職			就職しない数	進学者数 (大学院)	不明
				就職 B	未就職	就職率 B/A			
大学院	15	38人	18人	17人	1人	94%	15人	5人	0人
	16	39	11	10	1	91	24	4	12
	17	26	12	9	3	75	10	4	0
	18	17	8	6	2	75	8	1	0
	19	22	11	10	1	91	9	2	0
学部	15	352	185	157	28	85	135	32	0
	16	336	201	187	14	93	113	22	0
	17	315	191	182	9	95	87	37	0
	18	337	253	246	7	97	58	26	0
	19	394	266	246	20	92	96	32	0

4. 財務関係

主な収入及び支出

(単位：千円)

年度 科目	18年度決算額	19年度決算額
学納金収入	2,757,499	2,768,733
補助金収入	498,910	477,017
その他収入	148,938	108,440
帰属収入合計	3,405,347	3,354,190
基本金組入額合計	△ 63,643	△ 17,285
消費収入の部合計	3,341,704	3,336,905
人件費	2,098,278	2,124,871
教育研究経費	1,071,778	1,074,763
管理経費	239,787	258,585
その他支出	25,718	25,853
消費支出の部合計	3,435,561	3,484,072

○収支改善対策の具体的取組と効果

倉敷芸術科学大学の教育理念に基づく教育研究を行うために、健全な経営体制となるように下記のとおり改革・改善を行いました。

(1) 学生の確保・退学者の減少

平成19年度は各学部学科で学生確保のための特別予算（教育活性化予算）を計上し、ホームページの充実や学部学科の新たな試みに補助を行ないました。平成20年度以降の学生確保にあたり、志願者の少ない学科については改組するなど、全学部学科について見直しを行いました。

平成17年度からの取組で、退学希望者に対して必ずチュータが面談し、退学理由やそれに至るまでの経緯を必ず書かせるようにして、できるだけ退学しないように指導しました。

(2) 補助金・外部資金の確保

補助金や寄付金を受けた者が通常予算に加えて、予算を重点配分することで、やる気のある教員、特色ある研究者が、補助金・外部資金を受けやすい体制作りの計画を検討しました。

(3) 事業収入・収益事業の確保

大学の施設、教員を利用して、社会人（団塊世代）を対象とした生涯学習講座の充実に努めました。講座としては、芸術学部では染織、ガラス、陶芸、絵画など、産業科学技術学部ではパソコン、生命科学部では、運動、健康など本学の特色ある講座で、専門性を活かした講座を考え、実施しました。

また、動物病院では各地の動物病院から紹介を受けた動物の治療、検査を行ないました。

(4) 教員採用抑制による人件費削減

年次進行中の学科や授業の実施、コースの運営に支障をきたす場合を除き原則として採用は行わず、カリキュラムの組換えなどにより人件費の抑制を行いました。

(5) 教育研究経費・管理経費の見直しによる削減

不要照明の消灯、エアコンの設定温度の徹底など節電に努め、原油高による光熱水費の上昇に対応すると共に、耐用年数の過ぎた機器を省エネタイプの機器に更新するなど経費節減に努めました。

外部委託している清掃についても研究棟、管理棟で可能なところは極力各自で清掃を行い、経費の削減を図りました。また、旅費などの経費についても支出目的等を精査して節約に努めました。

学校法人 加計学園 平成19年度事業報告 【千葉科学大学】

I. 事業の概要（全般）

開学4年を経過して初めての卒業生を社会に送り出しました。企業、病院、薬局に加えて、消防、警察、海上保安庁など危機管理系の公務員に多くの学生を送り出したことは、本学の特徴と言えます。なお、薬剤師、臨床工学技士、臨床検査技師、救急救命士の国家試験については、学内で事前に指導を行い、まずまずの合格率を得ましたが、来年度に向けては、今年度の指導で改善すべき点を見直し、高率の合格率を上げられるように体制整備を行います。

第1期生の卒業に合わせて、薬学部・危機管理学部を基礎として大学院修士課程を申請し、認可されました。また、薬学部で動物と、薬の知識を持ち合わせた新たな人材の育成を目的とした動物生命薬科学科を計画し、届出が受理されました。危機管理学部・環境安全システム学科に生態系を取り巻く水環境を保全する技術を開発する人材育成を目的としたマリンバイオコースを計画し、学則変更に伴う届出を行いました。

II. 大学の概要

1. 学生の定員現員数

（平成19年5月1日現在）

学部・学科		定員数		現員数						
		入学定員	収容定員	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
薬学部	薬学科	200	725	222	125	284	244			875
	薬科学科	50	70	56	12					68
	計	250	795	278	137	284	244			943
危機管理学部	防災システム学科	70	290	38	73	75	68			254
	環境安全システム学科	70	290	81	58	101	76			316
	危機管理システム学科	70	290	74	75	102	76			327
	計	210	870	193	206	278	220			897
合計		460	1,665	471	343	562	464			1,840

（単位：人）

2. 学年暦

	春期休業	入学宣誓式	夏期休業	冬期休業	学年末休業	学位記授与式
千葉科学大学	4月1日 ～ 4月4日	4月6日	8月1日 ～ 9月23日	12月18日 ～ 1月7日	3月4日 ～ 3月31日	3月25日

Ⅲ. 各事業の概要

1. 教育・研究活動の進捗状況

- (1) 東京ビックサイトで行われた危機管理展（平成19年10月17日～19日）に展示ブースを設置して本学の活動をPRすると共に、危機管理学部の学生を見学させ、参加企業の最新ニュースや各種の危機管理用品に触れさせるよう教育を行いました。
- (2) 学内経費により教育研究を活発化させるための取組を行い、平成18年度報告会を平成19年6月5日～7日に実施し、平成19年度ヒアリングを平成19年6月18日～20日まで行い、継続取組も含めて49件を採択しました。
- (3) 外部資金の獲得については、科学研究費補助金（基盤研究C 7件、若手研究スタートアップ2件若手研究B 4件、分担者6件研究費約 23,000千円）が採択されるとともに、科学技術振興調整費補助金（1件約 1,000千円）、厚生労働省補助金（2件 13,000千円）が採択されました。
- (4) 岡山理科大学が主催するOUSフォーラムに昨年に引き続き参加し、本学の薬学部、危機管理学部の研究を各企業に発表しました。

入学者数・卒業者数等は下表のとおりです。

入学者数一覧 (平成19年5月1日現在)

	入学者		
		留学生	社会人
千葉科学大学	453	28	1

(単位：人)

卒業者数等一覧

	卒業者	退学者	除籍者	休学者	留年者
千葉科学大学	388	58	7	16	145

(単位：人)

2. 学生の募集・広報

広報活動の充実を図り、学生募集の拡大に努めました

3. 就職活動状況

学生に対する就職支援、キャリア支援、各種資格取得支援、就職先企業の開拓などを行いました。一期生の内定率は薬学部100%、危機管理学部97%、全学では98.4%でした。危機管理学部では延べ32名が危機管理系の公務員採用試験に合格しました。

- (1) 就職支援……………就職活動を進める上で必要なテーマ（適性検査実施、自己分析、自己PR、業界研究、筆記試験対策、面接対策など）を取り上げ、学部別に就職ガイダンスを開催しました。また、各学部固有の就職先となる業界を知ってもらうため、業界セミナーを学内で開催しました。
- (2) 合同企業説明会……………企業の採用担当者に本学キャンパスに来学してもらい、学生との面談を行い、本学に対する理解を深めてもらうための合同企業説明会を10月と12月の2回開催しました。10月の出席企業数は114社、12月は87社でした。
- (3) キャリア支援講座……………低年次から社会に目を向けさせ、自己分析やコミュニケーション能力を開発するための講座を、2年次生対象に6回、1年次生対象に2回開講しました。また、面接の際に必要なマナーを身に付けさせるため、ビジネスマナー講座を学部別に2回開講しました。
- (4) 公務員試験対策……………2年計画で公務員試験の対策を行う公務員試験対策講座を開講しました。入門講座では30コマ、教養試験対策となる講座では前期38コマ、後期38コマを開講しました。また、4年次生の警察・消防官希望者を対象とする直前講座を9コマ新たに開講しました。さらに、3年次生の12月から有料2回・無料3回の学内模擬試験を実施し、反復受験することで公務員試験へのモチベーションを高めていきました。
- (5) 企業開拓……………昨年に引き続き、様々な交流会に出席し、就職先の開拓を行いました。また、加計グループ5大学1短大共催の就職懇談会（東京、大阪、広島、福岡）において数多くの企業の採用担当者との交流を図りました。
- (6) 大学パンフレットの作成 ……平成19年度版企業向け大学パンフレットを作成し、全国の主要企業・官公庁等に送付し、大学のPRを図りました。
- (7) 各種資格取得支援……………危険物取扱者・ME技術実力検定・防災力検定などの資格取得に対して、学内教員が行う講座の支援を行いました。また、NPO法人日本防災士機構が認定する防災士資格の取得に関して、防災士養成研修実施法人の認定を受けました。これにより、危機管理学部指定科目の単位を取得することで資格取得試験の受験資格が得られ、本学内で実施する認定試験に合格すれば防災士の資格を得られることになりました。

4. 財務関係

主な収入及び支出

(単位：千円)

年度 科目	18年度決算額	19年度決算額
学納金収入	2,340,680	3,051,826
補助金収入	6,230	7,288
その他収入	73,413	93,485
帰属収入合計	2,420,323	3,152,599
基本金組入額合計	△ 10,661	△ 2,901
消費収入の部合計	2,409,662	3,149,698
人件費	1,644,442	1,711,025
教育研究経費	1,113,903	1,193,921
管理経費	473,747	409,668
その他支出	1,265	1,625
消費支出の部合計	3,233,357	3,316,239

学校法人 加計学園

平成19年度事業報告

【岡山理科大学附属高等学校】

I. 事業の概要（全般）

入学者の減少に歯止めをかけ、生徒数を増加させるため、学校教育の原点に立ち返って、これまで以上に、生徒・保護者・地域社会から信頼される学校づくりを推進しました。

具体的には

- 1) 生徒一人ひとりの学力を向上させ、満足のいく進路実現を保証。
- 2) 礼儀正しく、品位ある生徒を育成。（社会性の向上を目指し遅刻防止週間を設け指導）
- 3) 教員の意識改革及び資質向上を図り、安心して子供の教育を任せられる学校であるとの評価を確立。（教員対象の研修会（いじめ問題、特別支援教育等）を実施）

学力向上と進路実現のため、授業改善に取り組むとともに、関連大学との実効性のある高大連携を推進しました。

品位ある生徒の育成のため、基本的な生活態度の確立（とくに挨拶の励行、身だしなみの指導、遅刻の防止）に努めます。（遅刻防止週間を設け、遅刻常習者には保護者を呼んで指導を行った）

危機感をバネに、学校組織、学校運営を改革し、教職員の意識の活性化を図り、教職員集団が、それぞれの持ち味を活かしながらチームワークを発揮し、充実した教育活動を実践しました。

信頼される学校づくりを基盤として、その上に時代や社会のニーズに対応した科・コースの特色・魅力アップを実施していきました。

II. 学校の概要

1. 生徒の定員現員数

（平成19年5月1日現在）

課程・科		定員数		現員数			
		入学定員	収容定員	1年	2年	3年	合計
全 日 制 課 程	普通科	420	1,260	300	302	342	944
	機械科	105	315	68	62	86	216
	電気科	35	105	8	15	18	41
	情報科	35	105	30	11	31	72
	計	595	1,785	406	390	477	1,273
通信制課程	(広域)普通科	600	600				383
合計		1,195	2,385	406	390	477	1,656

（単位：人）

2. 学年暦

	学年始休業	入学式	夏季休業	冬季休業	学年末休業	卒業証書授与式
岡山理科大学附属高等学校	4月1日 ～4月7日	4月9日	7月20日 ～8月31日	12月25日 ～1月7日	3月21日 ～3月31日	3月1日

Ⅲ. 各事業の概要

1. 教育活動の進捗状況

最近4、5年の志願者数減、入学者数減を受けて、抜本的な改革が必要な状況の中、科・コースにおいては電気科・情報科の統廃合（電気情報科）と進路に応じた2年次からのクラス分け（選抜クラス、生命動物系クラスなど）を行い、関連大学の特色ある学部・学科との連携・接続・進学をアピールしました。（電気情報科申請、生命動物コース届出）

高大連携については附属高校と大学との相互理解を更に深め、高大連携推進委員会を中心に理大コースだけでなく、全科・全コースにおいて具体的な取り組み方法を探り、高校、大学がお互いに持ち味の生かせる内容を検討しました。（生命動物コースにおける実習委託及び講師派遣および通信制課程でのネイルアート実習）

工業においては活性化を図るため、各科とも趣向を凝らした「ものづくり」の内容を検討して、特色ある実験実習を模索し、生徒に対しては資格取得試験に積極的に挑戦させるよう指導しました。

通信制課程ではいままでの進学実績をベースに特進クラスを設定して、高校卒業資格の取得だけでなく、大学進学を目的とした進学に強い通信制課程の構築を目指しました。（関連大学への進学者が増加）

また岡山シーガルズとのスポーツ交流協定に基づき中・高の女子バレー部の充実を図るため、練習環境を整えるべく、小体育館の建設を計画しました。（平成20年度建設予定）

〔施設・設備〕

- ・ジョギングコース等設置工事を行いました。（2,143千円）
- ・その他教育用機器、図書等を購入し、設備の充実に努めました。

入学者数・卒業者数等は下表のとおりです。

入学者数一覧（平成19年5月1日現在）

	入学者	留学生	
		留学生	社会人
全日制課程	406	0	0
通信制課程	80	0	57

（単位：人）

卒業者数等一覧

	卒業 者	修了 者	退学 者	除籍 者	休学 者	留年 者
全日制課程	472	19	5	1	3	
通信制課程	165	26	4	0	0	

（単位：人）

2. 生徒の募集・広報

今年度は一昨年、昨年と続いた「オープンスクールの参加者は増えたが、志願者は減少」の反省を念頭に、参加した中学生が本校を必ず受験してもらえるようオープンスクールの内容を検討し、実施しました。（3回開催）

この他、広報活動の充実を図り、学生募集の拡大に努めました

3. 進学・就職活動状況

一昨年、昨年同様に早い時期からの進路目標確立のため、学年別・進路先別にガイダンス、講演会を計画、また各科・コースにおいても生徒、保護者対象に進路説明会を実施して、生徒の進路意識を高めると同時に生徒一人ひとりに適した進学・就職先を指導しました。

また、昨年同様に有名難関大学の指定校獲得のため、可能な限り大学訪問を行い、就職先ではより有名、優良企業の求人確保のため、企業訪問を実施しました。中高一貫コースの一期生が香川大学医学部医学科を筆頭に、筑波大学、岡山大学、広島大学など国公立の大学に39名（延べ数）が合格し、私立大学90校（関連大学4校含む）へ399名が合格しております。就職に関しては、岡山県下の企業48社、県外の企業20社に就職しております。

4. 財務関係

主な収入及び支出

(単位：千円)

年度 科目	18年度決算額	19年度決算額
学 納 金 収 入	970,287	852,024
補 助 金 収 入	461,242	423,656
そ の 他 収 入	106,429	89,525
帰 属 収 入 合 計	1,537,958	1,365,205
基 本 金 組 入 額 合 計	△ 45,221	△ 8,005
消 費 収 入 の 部 合 計	1,492,737	1,357,200
人 件 費	1,260,589	1,266,321
教 育 研 究 経 費	239,847	247,219
管 理 経 費	154,302	158,058
そ の 他 支 出	62,177	65,499
消 費 支 出 の 部 合 計	1,716,915	1,737,097

○収支改善対策の具体的取組と効果

組織の見直し、役職の任期制導入、人員削減など、単なる人件費の削減だけでなく、将来の安定した財政状況の現状を念頭に給与表等の見直しとして、非常勤講師料を公立高校と同額に揃えました。

また、教育研究経費、管理経費においても、昨年同様、必要な経費を明確化して、最小限の支出に努めました。

学校法人 加計学園 平成19年度事業報告 【 岡山理科大学附属中学校 】

I. 事業の概要（全般）

開校6年目を迎えて、第6期生35名が入学しました。入学者が伸び悩み傾向にあることから、これに歯止めをかけ、増加させるために、

- 1) 対策ワーキンググループを編成し、入試広報活動を計画的に進めました。
- 2) 大学進学実績がない現在、全国模試や各種検定試験指導に力を入れ、実績を広報に活用しました。
- 3) 課外活動（部活動・委員会活動）について、女子ソフトテニス部を発足させることとなり、広報活動を強化しました。

その結果、志願者数198名と前年度と比較して約2割の増加を達成しました。入学者数についても、61名と7割以上増加しました。しかしながら、依然として、入学定員80名に対して入学者数が定員割れの状況にあるのが現状であります。

そのほか、第4期生23名が義務教育課程を修了し、うち13名がそのまま中高六年一貫コースの高校に、1名が附属高校普通コースに進学が決定しました。

II. 学校の概要

1. 生徒の定員現員数

（平成19年5月1日現在）

	定員数		現員数			
	入学定員	収容定員	1年	2年	3年	合計
岡山理科大学附属中学校	80	240	35	32	23	90

（単位：人）

2. 学年暦

	学年始休業	入学式	夏季休業	冬季休業	学年末休業	修了式
岡山理科大学附属中学校	4月1日 ～ 4月7日	4月9日	7月20日 ～ 8月31日	12月25日 ～ 1月7日	3月21日 ～ 3月31日	3月17日

Ⅲ. 各事業の概要

1. 教育活動の進捗状況

中高六年一貫コースの目標として、全国難関大学や医歯薬学系大学への進学を目指していますので、六年の課程を前倒しで進めるとともに、全国模試や各種検定試験指導を強化しました。全国模試や各種検定とともに、一学年上のレベルに挑戦させ良い実績を得ました。数学検定では、中学3年生のうち3人が準2級（高校中級レベル）に合格しました。同様に、英語検定では2年生2人と3年生2人が準2級、漢字検定では3人が2級、9人が準2級に合格しました。

6月に3年生がオーストラリアに海外研修旅行に行き、ファームステイも体験して文化の違い等を学んで帰国しました。また、1年生は玉野総合医療専門学校で介護体験実習を、2年生は倉敷芸術科学大学で陶芸、ガラス工芸実習を行いました。

部活動においても、スキー部が、全国大会出場を果たしています。また、ノートルダム杯レシテーションコンテスト（暗唱コンテスト）でも準優勝、ライシャワー杯英語スピーチコンテスト（暗唱の部）で優勝、総合でも準優勝しました。数学検定については、3年生が文部科学大臣賞を受賞しました。

入学者数・卒業者数等は下表のとおりです。

入学者数一覧 (平成19年5月1日現在)

	入学者		
		留学生	社会人
岡山理科大学附属中学校	35	0	0

(単位：人)

卒業者数等一覧

	卒業 者	修了 者 ・	退学 者	除籍 者	休学 者	留年 者
岡山理科大学附属中学校	23	0	0	0	0	0

(単位：人)

2. 生徒の募集・広報

岡山市、倉敷市、赤磐市、備前市、神戸市、加古川市、姫路市、相生市を中心に塾訪問及び小学校訪問を行いました。7月、8月、9月、10月、11月、12月にそれぞれオープンスクール及び入試説明会を行いました。8月に塾対象で理科実験教室を理科室にて4回行いました。

(約120名)

3. 財務関係

主な収入及び支出

(単位：千円)

年度 科目	18年度決算額	19年度決算額
学納金収入	48,373	51,777
補助金収入	48,485	49,339
その他収入	2,326	2,788
帰属収入合計	99,184	103,904
基本金組入額合計	△ 754	△ 182
消費収入の部合計	98,430	103,722
人件費	128,673	170,112
教育研究経費	30,185	30,687
管理経費	11,849	12,571
その他支出	0	0
消費支出の部合計	170,707	213,370

○収支改善対策の具体的取組と効果

来年度以降も、志願者数、入学者数の確保が急務となっております。広報活動の強化により、過去最高の志願者数、入学者数を確保しましたが、定員割れの状況には変わりはなく、定員を充足させることが最低限の目標となります。人件費の伸びを抑えながら経費の削減にも努めましたが、入学者数が定員を下回っているため、より一層の入学者の確保に努めます。

学校法人 加計学園

平成19年度事業報告

【 岡山理科大学専門学校 】

I. 事業の概要（全般）

- (1) 明るく、活気のある学校づくりとして学生の登校時に校長を先頭に担当教職員、学生が学校周辺にて挨拶運動、マナーアップ指導を年間通じて実施しました。また、清掃美化として、1校舎、3校舎玄関を職員が定期的に清掃し、学校全体でオープンキャンパス前と年末に大掃除を終日行いました。
- (2) 昨年度末に2カ所にあった事務室を1カ所に統合し、事務分掌を精査し効率性が高まりました。
- (3) 会議、朝礼等で教職員にコスト意識を啓発しましたが、今後も継続的に続ける必要があります。

II. 学校の概要

1. 学生の定員現員数

(平成19年5月1日現在)

課 程	定員数		現員数		
	入学定員	収容定員	1年	2年	合計
工業専門課程(建築学科昼・夜間部)	90	180	58	48	106
商業実務専門課程(映像情報学科)	—	—	0	0	0
文化・教養専門課程(動物系総合学科2年課程)	150	300	195	184	373
文化・教養一般課程(動物系総合学科1年課程)	30	30	1	—	1
小 計	270	510	248	232	480
建築学科専攻科	10	10	8	—	8
映像情報学科研究科	—	—	0	—	0
動物系総合学科研究科	25	25	6	—	6
合 計	305	545	262	232	494

(単位：人)

2. 学年暦

	春期休業	入学式	夏期休業	冬期休業	学年末休業	卒業証書授与式
昼間部	4月 1日 ～4月 9日	4月 8日	7月22日 ～8月26日	12月23日 ～1月 6日	3月21日 ～3月31日	3月20日
夜間部	4月 1日 ～4月 5日		8月 1日 ～8月26日	12月23日 ～1月 6日	3月26日 ～3月31日	
岡山理科大学専門学校						

Ⅲ. 各事業の概要

1. 教育・研究活動の進捗状況

- (1) 各学科毎に講習会や資格取得を目指した対策講座（附带教育事業）を実施し、技能、学力の向上を図りました
- (2) 各学科毎に校外研修を積極的に実施し、各種体験（見る、聞く、触る）を通じて座学の実証と生の現場を学び、更なる探求心向上に結びました。
- (3) FD活動の一環として学生アンケートを実施し、改善事項を確認しました。切り口を変えて今後もアンケート実施の必要性を感じました。
- (4) 受託研究を年間 4 件 研究費総額 9 1 6 千円受け、産学連携の推進の一助となりました。
- (5) 各種企業、公共施設との連携をとり、多数のインターンシップの実施し就職に結びました。
- (6) 欠席がちな学生へのフォローを実施し退学者減に効果を上げました。なお、引き続ききめ細かいフォローが必要と思われまます。

入学者数・卒業者数等は下表のとおりです。

入学者数一覧 (平成19年5月1日現在)

	入学者	留学生	
		留学生	社会人
岡山理科大学専門学校	201	0	30

(単位：人)

卒業者数等一覧

	卒業 者	修了 者 ・	退学 者	除籍 者	休学 者	留年 者
岡山理科大学専門学校	241	24	3	2	4	

(単位：人)

2. 学生の募集・広報

受験生等に対して本校の教育内容、施設設備、入試内容をよりよく理解していただくためにオープンキャンパスを年間25回実施致しました。

この他、広報活動の充実を図り、学生募集の拡大に努めました

3. 就職活動状況

- (1) 就職への意欲を高めるため毎月校内で就職ガイダンスを行い、個別に進路相談と模擬面接、就職試験指導を行いました。
- (2) 春先から会社説明会、会社訪問を積極的に参加するよう指導を行い、就職についての啓発を行いました。
- (3) 校内で就職担当教員と就職会議を毎月行い学生の動向をチューターが把握できるよう環境整備を行いました。
- (4) 秋口から外部講師による就職ガイダンスを実施し、また業者主催の就職ガイダンスへの出席を呼びかけました。
- (5) 2月から1年生対象に就職ガイダンスを実施しました。

4. 財務関係

主な収入及び支出

(単位：千円)

年度 科目	18年度決算額	19年度決算額
学納金収入	398,993	391,312
補助金収入	497	401
その他収入	8,767	7,475
帰属収入合計	408,257	399,188
基本金組入額合計	△ 16,617	△ 414
消費収入の部合計	391,640	398,774
人件費	308,415	241,681
教育研究経費	106,877	99,435
管理経費	34,282	32,363
その他支出	2,279	2,673
消費支出の部合計	451,853	376,152

○収支改善対策の具体的取組と効果

授業料の値上げ、採算性の悪かった学科の閉鎖、教研、管理経費の節約により、収支決算数字が改善されました。

学校法人 加計学園

平成19年度事業報告

【 玉野総合医療専門学校 】

I. 事業の概要（全般）

「学・術・道」の校是のもと21世紀の福祉社会が求める専門職の人材育成を目指して、国家試験の全員合格を目標に全学を挙げて取り組みました。

平成20年度入学定員確保のために入試・広報委員会を設け、教職員一丸となって広報活動に取り組みました。

保健看護学科

7期生（4年次生）の国家試験受験に向けて、国家試験対策（看護・保健）担当教員を専任とし、学生指導の強化を図りました。既卒者への指導にも力点を置きました。

また、3年次生に関しては、国際理解を含めた海外研修（米国）へ5名参加しました。2年次生に関しては、5月に宣誓式を行い、看護師への道に関して、あらためて、今後の目標を再認識させました。

介護福祉学科

介護福祉学科卒業で取得できる介護福祉士の資格に関して、2年次生に自覚を持ってもらうため、また最終段階の実習に出る前の意思確認を行うために、10月に宣誓式を行い、決意を新たにさせました。

また、国際理解を深めるために海外研修（カナダ）へ7名参加しました。

2年間のレクレーション授業の集大成として年始に地域の方々を招いての、お正月行事を企画・運営しました。

理学療法学科

4期生卒業を迎え、国家試験対策を行いました。昨年度からの教訓を踏まえ国家試験対策の時間を十分に確保し、学生が十分な余裕と自信を持って国家試験受験に臨むことが出来るように指導しました。

また、3年次生においては、国際理解を深めるための海外研修（米国）へ4名参加しました。

作業療法学科

4期生卒業を迎え、国家試験対策を行いました。昨年度からの教訓を踏まえ国家試験対策の時間を十分に確保し、学生が十分な余裕と自信を持って国家試験受験に臨むことが出来るように指導しました。

4 学科合同

新入生に関しては、学生間の交流を図り、仲間意識を強め連帯感を持たせる目的として、1年生の合同宿泊研修を実施しました。また、基礎学力テストを行い各自の基礎学力を元に指導できる体制を整えました。

国際交流において海外の教育交流提携校からの研修生を受入、本校の学生との交流を図り国際理解・協力の一端を経験させました。

秋季には、学友会主導による学校祭を行い学生間・地域の方々との交流を図りました。

本校の施設を利用して、地域住民の方々を対象とした公開講座を11月の毎土曜日に行い地域の保健医療福祉の充実を図るためのサポートを行いました。

II. 学校の概要

1. 学生の定員現員数

(平成19年5月1日現在)

課 程	定員数		現員数				
	入学定員	収容定員	1年	2年	3年	4年	合計
医 療 専 門 課 程 (保健看護学科、理学療法学科、作業療法学科)	120	480	99	113	118	115	445
教育・社会福祉専門課程 (介護福祉学科)	40	80	17	35	—	—	52
合 計	160	560	116	148	118	115	497

(単位：人)

2. 学年暦

	春季休業	入学式	夏期休業	冬期休業	学年末休業	卒業証書授与式
玉野総合医療専門学校	4月 1日 ∪ 4月 4日	4月10日	8月 1日 ∪ 8月31日	12月24日 ∪ 1月 7日	3月21日 ∪ 3月31日	3月10日

III. 各事業の概要

1. 教育活動の進捗状況

保健看護学科

看護師国家試験は、7期生38名・既卒者4名、計42名が受験し、7期生35名・既卒者2名が合格しました。また、保健師国家試験は、7期生38名・既卒者9名が受験し、7期生35名・既卒者6名が合格しました。7期生38名が卒業し、37名が県内外の諸施設に就職しました。

介護福祉学科

9期生31名が卒業、うち25名が就職、6名が吉備国際大学の3年次に編入学しました。

理学療法学科

4期生34名・既卒者4名が理学療法士国家試験を受験、4期生28名既卒者1名が合格しました。4期生34名が卒業し、30名が県内外の諸施設に就職しました。

作業療法学科

4期生26名が作業療法士国家試験を受験し、21名が合格しました。4期生26名の全員が県内外の諸施設に就職しました。

入学者数・卒業生数等は下表のとおりです。

入学者数一覧 (平成19年5月1日現在)

	入学者		
		留学生	社会人
玉野総合医療専門学校	114	0	4

(単位：人)

卒業生数等一覧

	卒業者 ・ 修了者	退学者	除籍者	休学者	留年者
玉野総合医療専門学校	129	29	2	15	32

(単位：人)

2. 学生の募集・広報

- (1) 6社の広報誌に本校の紹介記事を掲載、進学説明会に参加しました。
- (2) 企業によるオープンキャンパス等の特集号に参加し、今年度より2回(6/2、7/14)のオープンキャンパスを行いました。また、学校祭にあわせて、進路相談会を実施しました。追加で、ミニオープンキャンパス(8/24~28)を実施しました。

この他、広報活動の充実を図り、学生募集の拡大に努めました

3. 就職活動状況

保健看護学科の就職担当教員による県内全域の主たる病院施設等への訪問、及び既卒者による各自の就職先の紹介、卒業前と就職後の各自の意識の違いなどに関する意見交換会を開催しました。

介護福祉学科の就職担当教員による県内施設への求人状況の問い合わせを行いました。理学療法学科、作業療法学科の就職担当教員による県内外の本校実習施設及び病院施設等への問い合わせを行いました。

平成19年度卒業生就職率	保健看護学科	98%
	介護福祉学科	100%
	理学療法学科	88%
	作業療法学科	100%

4. 財務関係

主な収入及び支出

(単位：千円)

年度 科目	18年度決算額	19年度決算額
学納金収入	587,952	535,393
補助金収入	27,208	26,904
その他収入	28,033	7,040
帰属収入合計	643,193	569,337
基本金組入額合計	△ 14,735	△ 657
消費収入の部合計	628,458	568,680
人件費	374,123	327,985
教育研究経費	191,451	193,888
管理経費	35,212	36,379
その他支出	2,625	3,418
消費支出の部合計	603,411	561,670

○収支改善対策の具体的取組と効果

昨年度と比較して、19年度の受験生は、減少しましたが、専願入試が増加したため、入学生が全体で増となりました。しかし、まだ定員確保に至っていないため、平成20年度は、より一層学生募集に努めます。

(1) 受験生、保護者への広報を積極的に行いました。

高校内説明会等に過年度以上に積極的に参加し、本校の特色を受験生に直接伝えるよう努めました。また、通学可能範囲の高校教員へのアプローチを積極的に行いました。

(2) 教育及び学生サポートの充実により、在校生の満足度を上げるよう努めました。

学校法人 加計学園

平成19年度事業報告

【 倉敷芸術科学大学専門学校 】

I. 事業の概要（全般）

創立4年目を向かえ、建学の理念に基づき、伊藤新校長のもと、基本に立ち返り、「食と器のスペシャリスト」の育成に努めました。

平成20年度に向けて校名を「倉敷 食と器 専門学校」へ変更する届出を行いました。また、より専門性を重視した教育課程に変更し、学科名称を「高度調理フードコーディネーター学科」、「高度製菓製パン学科」、「高度陶芸ガラス創作学科」へ変更する届出を行いました。

副校長が学生の生活や退学者をなくす指導をしました。しかし、退学者数は昨年度と同数でした。

II. 学校の概要

1. 学生の定員現員数

（平成19年5月1日現在）

課 程	定員数		現員数		
	入学定員	収容定員	1年	2年	合計
衛生専門課程 （調理・フードコーディネーター学科、製菓・製パン学科）	80	160	44	48	92
文化・教養専門課程 （陶芸・ガラス創作学科）	20	40	10	6	16
合 計	100	200	54	54	108

（単位：人）

2. 学年暦

	春季休業	入学式	夏期休業	冬期休業	学年末休業	卒業証書授与式
倉敷芸術科学大学専門学校	4月1日 ＼ 4月4日	4月5日	7月25日 ＼ 8月31日	12月24日 ＼ 1月7日	3月21日 ＼ 3月31日	3月23日

Ⅲ. 各事業の概要

1. 教育活動の進捗状況

- (1) 調理・フードコーディネーター学科は、大手食品メーカーの依頼による商品開発を実施し、事業を拡張しました。
- (2) 製菓・製パン学科は、チボリ公園内に倉敷芸術科学大学起業学科と本校とのコラボレーションによるケーキショップ「倉芸工房」を平成19年10月19日に開設しました。実践的な職場体験の場として、教育効果、本校の魅力、知名度を高めるよう努めました。
- (3) 陶芸・ガラス創作学科は、社会人・一般生涯学習講座を、受講生のスキルに合わせ、初心者向けの「ベーシックコース」と既習者向けの「キャリアコース」の2コース制にし、受講生の満足度向上を実現しました。

《教育関係》

(1) 調理・フードコーディネーター学科

高齢者介護食にかかわる授業を導入することにより、介護を必要とする高齢者のための食欲の出る調理、季節感のある料理、見た目に美しい料理などの知識、技術を習得し、食のスペシャリストとしての幅を広げました。また、全員が高齢者介護食士の資格を取得出来ました。

(2) 製菓・製パン学科

より実践的な能力が身につくよう、自前のケーキショップ（倉芸工房）で、製造、販売等を体験することにより、今まで以上に、菓子店の実際を学ぶことができました。

(3) 陶芸・ガラス創作学科

陶芸作家コース及びガラス作家コースでは、建学の理念のもと、器を作る「知恵」（豊かな知識）、「喜び」（確かな技術）、「責任」（愛される人格）を持った人材を育成するため、科目内容の見直しを行い、教育内容の充実を図りました。

《施設・設備関係》

新学科、新コース設置のため、施設の改修工事、機器・備品を購入しました。

来客用トイレ1箇所、洋便器に変更しました。

来客・学生用駐車場に照明器具を設置しました。これにより、夕暮れ以降も安心して駐車場を利用することができるようになりました。

製菓実習用に石窯を建設いたしました。これにより製菓実習の幅が広がり、さらなる専門技術の習得ができるようになり、教育設備がより充実しました。

平成20年4月校名変更に伴い、正面看板他3箇所改修工事を実施しました。

教職員が持ち寄り、倉専果樹園を設置しました。熟れた実を調理・製菓実習で使用しております。

朝夕のJR新倉敷駅からの無料スクールバスの運行を始めました。さらに、JR茶屋町駅からも増便しました。多数の利用者があり、学生の交通の便がより充実しました。

入学者数・卒業者数等は下表のとおりです。

入学者数一覧

(平成19年5月1日現在)

	入 学 者	留 学 生	
		留 学 生	社 会 人
倉敷芸術科学大学専門学校	54	0	5

(単位：人)

卒業生数等一覧

	卒業 者 ・ 修 了 者	退 学 者	除 籍 者	休 学 者	留 年 者
倉敷芸術科学大学専門学校	48	6	0	0	0

(単位：人)

2. 学生の募集・広報

基本方針として、全教職員が広報担当として、より積極的に高校訪問等広報活動を行いました。

3. 就職活動状況

平成18年度に引き続き求人票の早期収集、早い時期からの就職指導等を行いました。

学生に対しては、挨拶、返事、言葉遣いなど社会生活の基本を指導するとともに、進路・就職希望調査の実施及び模擬面接、受験指導等を実施しました。

5月中旬からは、学生に対して、会社説明会、会社訪問の積極的参加を指導しました。

10月からは、就職未決定者にガイダンスを実施し、意識の高揚を図り、就職活動をサポートしました。

2月には、1年生に対して就職ガイダンス、インターンシップについての心構えの指導を行いました。

その他、学園が主催する各種就職ガイダンスに積極的に参加しました。

結果、就職希望者の就職率100%を達成しました。

4. 財務関係

主な収入及び支出

(単位：千円)

年度 科目	18年度決算額	19年度決算額
学納金収入	114,693	110,461
補助金収入	265	224
その他収入	4,021	3,425
帰属収入合計	118,979	114,110
基本金組入額合計	△ 981	△ 1,307
消費収入の部合計	117,998	112,803
人件費	132,158	115,426
教育研究経費	66,088	63,239
管理経費	28,830	41,515
その他支出	0	0
消費支出の部合計	227,076	220,180

○収支改善対策の具体的取組と効果

(1) 収入の増加

学生募集活動を強化し、オープンスクールの参加者は増加しましたが、学生確保につながらず、収入の増加が出来ませんでした。

附帯事業において、高齢者介護食士講座、菓子講座等により、収入増が出来ました。

(2) 支出の削減 経費の削減

不必要な電気はこまめに消すなど、基本に立ち返り経費の削減に努めました。